

令和6年度 台東区立田原小学校 学校経営計画・学校評価表（自己評価・学校関係者評価）

| | |
|----------------|---|
| 学校教育目標 | ○思いやりのある子 ○自ら学ぶ子 ○ねばり強い子 ○じょうぶな子 |
| ○目指す児童像 | た確かな伸びを実感しながら、仲間と共に自己実現する児童 |
| ○目指す教師像 | わ分け隔てなく児童に愛情を注ぎ、志を高くもつ教師 |
| ○目指す保護者 地域との関係 | ら羅針盤として保護者や地域の思いや絆を大切に、希望を共に形にする |

| 領域 | 中期経営目標 | 短期経営目標 | 具体的方策 | 成果指標 | 評価 | 分析コメント | 改善策 | | | |
|----------------------|---|--|--|--|--|--|--|---|---|--|
| 目指す児童像 | 人権の尊重を核とした豊かな心の育成 | 人権意識・自己肯定感の育成 | 人権教育を柱とした、「考え議論する道徳」の充実 | 6月11月のふれあいアンケートの結果 | B | 今年度は、道徳授業地区公開講座で弁護士の方を招聘し、児童、保護者と共に「いじめ」について考える機会を設けた。また、いじめについては早期発見・早期解決に向けて対応したので、「いじめ重大案件」はなかった。児童の自己肯定感に関するアンケートでの肯定的回答は94.7%保護者は57.3%と、回答に差があった。 | いじめ対策については、かなり小さな児童の困り感も含めて丁寧に対応しているつもりだったが、保護者の認知は少なかった。今までの丁寧で組織的な対応に加えて、2学期に保護者会を行い、学校の取組をしっかりと保護者に周知する機会をもつ。 | | | |
| | | | いじめの未然防止、早期発見、早期解決 | | | | | | | |
| | | | 授業や、特活的な活動、行事での活動を通して、成長したことを児童自らが振り返る活動の重視 | 児童の自己肯定感に関する、児童、保護者のアンケート結果 | | | | | | |
| | | 各教科・領域において、個々の児童を認め賞賛する機会の増進 | | | | | | | | |
| | | コミュニケーション能力の向上 | 挨拶当番の児童と管理職での毎朝の挨拶計画・実施 担任の、毎朝教室で児童を迎え、挨拶を交わす取組 | 挨拶の実施状況とあいさつに関する、児童、保護者のアンケート結果 | | | | B | 来客者には、「すすんであいさつしますね。」とお褒めのお言葉をいただくことが多いが、児童の肯定的回答は83.2%保護者は76.3%にとどまった。 | 今年度から通年実施とした朝の挨拶当番活動などを継続し、挨拶を交わすことの大切さを地道に伝えていく。また、当番活動だけではなく児童主体による活動を企画・実践させる機会をもつ。 |
| | | | | 年間12回以上の仲よし班での異学年交流とその充実 | | | | | | |
| | 規範意識の醸成 | 学級が落ち着いて成長できる学習規律の重視 自主的な身の回りの整理整頓への指導の充実 けじめある学校生活のための意識の醸成 | それぞれの規範意識に関する児童、保護者のアンケート結果 | A | ほとんどの児童は、決まりをしっかりと守り落ち着いた生活を送っている。児童の肯定的回答は91%保護者は87%と昨年度に比べて、3.3%向上した。どのクラスも落ち着いて学習を行っており、学校の決まりに対しても教職員が児童に丁寧に指導していることの成果である。 | 規範意識は一朝一夕で醸成されるものではないことを教職員・児童ともに意識させ、小さなことも見逃さない学校風土を形成していく。特に、教室環境の整美整頓については、生活指導主幹を中心に全校統一したものしていく。また、情報リテラシーについては保護者も含めた啓発に注力していく。 | | | | |
| | | | | | | | インターネットを利用する際のリテラシーへの理解・獲得に向けた指導の充実 | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | 個別最適な学びに伴う学力向上 | 個別最適な学習・基礎基本の徹底 | 言語活動充実のための読書の充実 | 学力調査、ワークテストの結果 | A | 区の学力調査では、6年生が4ポイント、5年生が0.2ポイント上昇し、4年生が区の平均を1ポイント上回った。都の学力調査では、国語算数共に全員が3問以上正答し、一人一人に寄り添った授業計画を推進することができた結果だと考える。 | 学力調査の結果分析をもとに作成した各学年の「授業改善推進プラン」を生かし、個別最適な学習計画につなげる。また、中学年以上で実施の教科担任制を充実させ、児童をチーム学年で育成・評価する意識を更に深めていく。さらに、学力向上委員会を発足させ更なる向上を目指す。 | | | |
| | | | 組織的・系統的な小論文指導の継続 | | | | | | | |
| | | 基礎基本のを補充する一人一人に寄り添った授業計画の推進 | | | | | | | | |
| 基礎基本を補充する計画的な朝学習での取組 | | | | | | | | | | |
| 主体的で対話的な深い学びの授業の推進 | 探究学習の充実 教科担任制による専門的な学習指導の推進 毎時間ねらいを明確にした授業計画の徹底 ICTを活用した個別最適な学習計画の推進 | それぞれの主体的で対話的な深い学びの授業作りの推進に関する児童、保護者のアンケート結果 | B | 今年度は総合的な学習の時間を校内で研究を行い主体的な学習、探究学習について教員が学ぶことができた。児童の肯定的回答は94.4%ととても高かったが、保護者は69.2%と昨年度に比べて、4.7%低下した。 | 次年度の総合的な学習の時間は、今年度の研究成果をベースに各学年で改善を図り、「田原の時間」の基本型として完成させる。その成果については、児童の探求の様子を中心に学校HP、保護者会などを通してより積極的に発表・発信していく。 | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| 基本的な生活習慣の確立と体力向上 | 体を動かすことを楽しむ機会増進と運動量の確保 | 体育の授業での運動量の確保 | 体力テストとその意識調査の結果 | B | どの学年も全国平均と比べ、ボール投げと握力の記録が低かった。ボールを握る力が弱いことが、ボール投げの記録にも影響していると考えられる。また、総合評価を見ると、DとEの評価が約30%を占めている。握力とボール投げだけでなく、全体の数値を高めていく必要があると考える。 | 年間を通して、体育朝会や体育の授業で、タオルを使って投球動作の練習を行ったり、助走の付け方を練習させたりする。またボールをしっかり握ることを教え、準備運動で手のグーパー運動を取り入れる等のことを行うことで握力強化にも繋がるのではないかと考える。 | | | | |
| | | 計画的な体育朝会による、楽しんで身体を動かす機会の増進 | | | | | | | | |
| 健康教育の推進 | 生活指導部による「生活リズムチャレンジ週間」を通しての家庭への啓発 年3回の養護教諭による保健指導を通して児童が自分の健康を考える機会の確保 | 食育、健康教育に関する児童、保護者のアンケート結果 | C | 保護者アンケートで、健康や安全に関する項目が微減。食育については4ポイント減となった。また、フリー記述でも給食に対して厳しい意見があった。養護教諭が産休に入り、一時養護教諭不在になったことと、栄養士も昨年途中で病休に入り、人事が不安定であったことが | 保護者からの指摘を真摯に受け止めるとともに、コロナ禍で実施できなかった「ふれあい給食」の再実施などを通して、食の安全やメニューの工夫について改めて伝えていく。また、今年度途中から学校HP配信を始めた「今日の給食」の周知に努め、その充実を図っていく。 | | | | | |
| | | | | | | | | | | |

| 領域 | 中期経営目標 | 短期経営目標 | 具体的方策 | 成果指標 | 評価 | 分析コメント | 改善策 |
|---------------------|----------------|-----------------------------|----------------------------------|---|---|--|--|
| | | | 栄養士や養護教諭と連携した食育授業の実施 | | | 要因として考えられる。 | |
| 目指す教師像 | 愛情深く志を高くもつ教職員 | 公正公平で愛情深い指導の充実 | 支持的な言葉かけや指導の徹底 | 教職員の公正公平で愛情深い教育活動に関する児童、保護者のアンケート結果 | C | 児童アンケートで、教員の公正公平に関する回答が、91%と高かったのに対して保護者の回答は66%と低かった。各担任の教育活動の周知が徹底されていなかった。 | 児童・保護者との対話を重視し、一人一人を大切にした指導の肝要性についての研修を行う。各担任の教育活動についてHPで周知し、保護者の理解を深めていく。 |
| | | | どの児童も同じように公正公平に接する態度の徹底 | | | | |
| | | | 特別支援教育に基づいた個別対応の推進 | | | | |
| | | 志高く、学び続ける機会の増進 | 研修研鑽に励み、研究授業及び研究協議会への積極的な参加 | 教職員、管理職による自己評価と児童、保護者のアンケート結果 | C | 保護者アンケートの通知表についての肯定的な回答は3ポイント増であった。授業については69.2%で、児童のアンケートの満足度が94%に対して低い数値となり、改善を必要とする声が大きかった。 | 通知表の様式については、個人面談を併用しながら、児童の様子を保護者にしっかり伝えるという本来の趣旨に沿ったもの今後も検討し、保護者の理解を得られるようにしていく。 |
| | | | 指導と評価の一体化に基づいた適切な評価の徹底 | | | | |
| | | | 切磋琢磨し、お互いに高め合う教職員集団の構築 | | | | |
| | | 教育公務員、組織人としての意識の醸成 | チーム田原の一員として組織的な課題の解決 | A | 教職員のアンケートでは、組織対応95%、ライフワーク・バランス0.86%、サービスの厳正95%、となった。全体的に高い数値となった。ライフワーク・バランスについては、他の2点と比較すると低い結果であった。 | 来年度は、更に組織的な対応ができるように組織の再編成を行う。また、働き方改革を推進すると同時に、教職員一人一人の声に耳を傾けることで、働き甲斐改革も推進していく。 | |
| | | | ライフワークバランスを考え、仕事と共に心身の自己管理の推進 | | | | |
| | | | サービスの厳正 | | | | |
| | 家庭・地域社会との連携・協力 | 開かれた学校（教育活動の発信） | 地域や保護者に向けて、適宜情報を公開するためのホームページの活用 | それぞれの家庭・地域社会との連携・協力に関する学校運営連絡協議会委員と児童、保護者のアンケート結果 | B | 保護者アンケートで、ホームページでの情報公開に対する肯定的な回答は、75.6%学校公開の回数については81.2%地域はいずれも95%以上が肯定的な意見であった。情報公開をもっと行う必要がある。 | 今後、「社会に開かれた教育課程」を具現化していくためにも、現在実施している地域人材ゲストティーチャーによる出前授業の様子などを率先して発信していく。これからもHPを中心に教育活動について発信していく。 |
| | | | 学校公開や道徳授業地区公開講座等参観機会の増加 | | | | |
| | | | 保護者や地域の方が参加可能な学校行事の充実 | | | | |
| 地域や保護者との絆を大切にした教育活動 | | 日常的な幼稚園児との交流 | A | 地域のアンケートでは、肯定的意見が95%であった。また、保護者のアンケートでは、82.3%と満足度の高さがうかがえた。 | 今年度は、学校運営連絡協議会委員だけでなく地域の方々からも外部アンケートを取らせていただいた。その意見を学校運営上の羅針盤として真摯に受け止め、活かしていく。 | | |
| | | 地域、保護者等人材の活用 | | | | | |
| | | 地域や保護者の思いや考えの傾聴・協働の推進 | | | | | |
| 地域行事の特色を教育活動に生かす取組 | | 田原バンドやフラッグ等の地域行事出演 | C | 地域のアンケートでは、肯定的意見が95%であったが、保護者のアンケートでは、59%と低い結果となった。保護者の肯定的な意見は昨年度に比べれば2.3ポイント増だったが、厳しい結果となった。 | 田原バンド・フラッグ隊の活動については、次年度以降も教育課程に位置づけ実施継続していく。教職員の外部との連携については、浅草の地域性も踏まえて、自己申告時面談等で粘り強く啓発し、地域に愛される教職員集団をつくっていく。 | | |
| | | 教職員の地域行事やPTA行事の参加 | | | | | |
| | | 浅草の地域や伝統・文化の特色を生かした教育活動の増進。 | | | | | |